

以て重なる産出地となし福建は毎年平均三萬斤浙江は五萬斤餘を出すと云ふ上等品の荷造は箱入となし藤蔓を以て周圍を括り費用は毎箱銀三匁五分下等品は總て蓆包となし銀一匁内外を要す上海の間屋は大東門外南市の怡記、同泰の二家にして取引上の權衡銀兩は前に同じ目下の相場は福建産每百斤に付二兩六匁浙江産全二兩五匁次は一兩四匁内外需用は各省一般に之を健康藥材に供し其効能は鹿茸粉に同じと云ふ明治二十二年中日本に輸出せしものは八千四百六十二圓なり桂皮油は廣東江蘇の兩省より産し荷造は四斤入の壺一百個を以て一箱となす價格は廣東産每斤十六圓江蘇産全十二圓八十錢問屋及權衡銀兩は前に同じ明治二十二年中日本に輸出せしものは一萬四千三百七十七圓同廿四年清國より我國へ輸入せし總額は三十萬零九千三百卅七斤其價一萬一千七百七十六圓四十四錢とす

第廿三章 大茴香一名八角說明

總 說

大茴香には木實草實の二種あり支那に於ては木實のものを大爲と名け草實のものを小爲と稱せり即ち日蔞産を元油大爲、陝西産を西小爲日本産を洋大爲、洋小爲となすの類なり目下の相場は日蔞産每百斤凡る三十兩陝西産十二兩日本産大爲十二兩内外小爲三四兩より六七兩にして荷造法は何れも蓆包となし每件一百餘斤を裝へり上海輸入は毎年平均日蔞産一千餘包陝西産二百包日本産一千包又た香港に輸入するもの總額五六千包に及へり上海の重なる問屋は南市の恒大、益豐の二家にして取引上の權衡銀兩は前に同じ明治廿四年日本より清國へ輸出せし額は八十五萬七千八百零八斤にして其價四萬一千六百十二圓十二錢又外に香港へ向け四十二萬九千三百十七斤其價二萬一千九百圓零零六十六錢を輸出せり

第廿四章 生油 和名落花生の油

第三編 補欵說明 陸産物 第廿四章 生油說明

總 說

生油の重なる産地は菜陽、青州、青口、兩相、浦兒等の各處にして毎年平均七十萬斤餘を出す荷造法は柳枝を以て製したる大簍の裏面に油紙を糊りたるものに入れ、芋繩にて外圍を括り、每簍百四十五斤を裝ふ費用は銀三匁八匁を要す。廣東、江蘇、浙江、福建等の地方多く之を需用し、専ら燈明及び食物調理用に供せり。上海は毎年五十萬斤内外を使用し、其日本に輸出するもの毎年三萬斤に下らず。目下の相場は菜陽産每百斤五兩零六分、青口産五兩零五分、兩相産五兩零三分。其他は無貨無市。上海の問屋英大馬路の萬康醬園、法大馬路の萬隆醬園を最も著名なりとす。取引上の權衡は菜陽秤(匁一十六兩三)銀兩は九八銀を用ゆ。

第廿五章 草麻油 和名ひまし油又は唐胡麻油

總 說

草麻油は滿州の牛莊及山東省の青州府を重なる産地となし、牛莊は每

年大約三十五億萬斤、青州は一千零四十一萬斤内外を産出せり。荷造法は生油に同して、每簍三百五十斤を裝ひ、費用は銀七匁餘を要す。需用は各省一般にして、印肉或は蠟燭製造機械の塗抹用又は食物調理等に使用するものとす。上海は毎年平均二千簍餘、招商局其他の漁船は毎年一千簍餘を需用すと云ふ。其日本に輸出するも毎年平均六百簍、諸外國には三千簍内外に至る。上海有名の問屋は英大馬路の華榮號一家にして、目下の相場は每百斤六兩二匁、權衡銀兩は前に同じ。明治廿四年清國より日本へ輸入せし總額は八萬零一千七百九十九斤にして、其價七千零六十三圓八十八錢なりとす。

第廿六章 芥路油 一名百美油 說明

總 說

芥路油の現今上海市場に聲價を博せしものは大坂新町二丁目西口の増江又兵衛製造にして、新舊の二様あり。荷造法は板箱を用ひ、每箱新舊

第三編 補飲說明 陸産物 第二十六章 芥油說明

各一千盒合して二千盒となし之を装ふ用途は専ら支那婦女の搽髮料に供するものとす目下の相場は老牌(舊)每一千盒十六圓新牌(新)新全十二圓にして輸入は毎年大約一百箱内外とし春初の取引最も盛なり上海の重なる問屋は法馬路の徳生號一家とす上海は毎年五十箱其餘は多く寧波福建の各處に需用すと云ふ

第廿七章 薄荷油説明

總説

薄荷油は支那廣東地方より多く之を産出すと雖も亦是日本より輸入の一品にして明治二十二年中の調査に據るに輸入總額は八千五百三十九圓に達し支那に於ては回生葯料に供するを以て夏季炎暑の候取引最も多く各省到處之を用ひざるはなし種類は結成及流液の二様に分ち荷造法は何れも小玻璃瓶詰となし每箱大約四十瓶入となせり上海の問屋は南市の恒大益豐の兩家を以て有名のものとし目下の相場は每箱四十瓶一圓十錢小賣は每瓶二錢八厘

第廿八章 紅花説明

緒言

紅花は日本に輸入する藥品中の重なる者にして一名を藥花と云ふ支那に於て紅花の蕃殖は漢の張騫西域に使せし時土耳其斯坦より持來せしに始まる現今之か中央市場は漢口にして他省に轉輸するのみならず我國に輸出し來り盛んに需用ありしか現今に至ては西洋より輸入する硃紅染料粉を以て之れに代用するか故に大に其産額を減したり現に千八百八十五年漢口の總輸出高は二十二萬六千七百九十三斤にして此元價十二萬五千六百三十圓銀兩なりしも千八百八十七年即ち我明治二十年の輸出は十三萬七千零三十六斤にして此元價七萬七千四百一十一圓銀兩にして殆んど前年の半額なり

產地 西藏四川河南の三省に産す

産額 西藏河南の産額は詳かならざれども四川に於ける毎年の産額は凡そ二千担即ち二十萬斤内外なりと云ふ

品位 色は老紅色にして蕊子は細く品は濕氣なきを上等とし黄色之に次ぎ黒色又之に次ぐ大体に新貨は色澤光紅にして舊貨は其色薄淡なり産地を以て品位を別たは、西藏産を以て最好とすれども價高く品少なし而して四川産之に次ぎ河南又之に次ぐ

用途 支那には重に染料及び墮胎薬に用ゆと云ふ之を染料に供するには粉末となし器に入れて水を投し其水を倒すと二回然る後更に水を投して紅色を發するを待ち以て諸物を染む先の二回は只黄色にして本色を發せざるを以て之れを倒すと云ふ

製法 四川産は礪に入れて之れをつき水を入れ黄水を取り更に麻布を以て之れを絞り然る後板を以て上下を壓搾し大片を製し日中屢々晒乾翻々し然る後之れを收む

大河産は兩手を并せ手掌の如くに形を製す餘は同前河南河北産は花を篋籃に盛り溪水を侵し木杵を以て之をつき黄水を流し然る後之を握て製せり

荷造法 板箱を用ゆるものあり麻袋を用ゆるものありて一定せざれども多くは内面を布にて包み外面は紙にて封し再ひ油を以て其表面を糊塗し又其上を下等麻布に包み繩にて括る而して風袋を合せ百四五十斤乃至百七八十斤の重量なり

荷造費 荷造費は銀六匁内外なり

需用地 各省一般に需用すと雖ども廣東浙江江蘇福建を以て最も好銷なりとす

需用額 取引の最も多きは河南産にして四川産之に次ぎ西藏は極めて少なし毎年上海にて需用する片子紅花は大約二百件餘にして每件二百餘なり全上赤紅花は一百餘件にして每件七八十斤乃至一百斤なり

價格 目下上海に於ける價額は

小河産片子紅花	上等七十兩
大河産赤紅花	全 六十兩
河北産	全 二十六兩
河南産	全 二十二兩
西藏絲狀紅花	一斤 八十元
四川粉粒紅花	百斤 十六兩
河南粉粒紅花	全 七兩五匁

用稱及び用銀 漢口にては銀は九八銀稱は錢秤或は曹平秤を用ひ上海にては銀は九八銀稱は天平秤を用ゆ
 賣買上の習慣 漢口にては風袋を除去せず總量にて賣買するの習慣なり

問座 漢口に於ける紅花商行招牌は左の如し

- 勝昌行 趙泰興行 金萬春行
- 聚昌行 乾元行
- 以上五家は四川紅花の賣捌きに從事す
- 徐復泰行 王德泰行 黃振泰行
- 徐吉泰行 汪祥茂行 宋生發行

以上六行は河南紅花の販賣に從事す

上海に於ける有名なる問屋は大東門外の趙義泰紅坊店なり又西藏紅花の問屋は馮存仁蔣舖のみなり

税金 支那輸出税は原價の五分なり

輸出額 明治廿二年度に於て支那より日本に輸出せし價額總計は一萬九千九百三十九元廿四年度には四萬二千五百九十八斤其元價一萬一千五百零一圓七拾錢

備考

四川紅花は保寧潼川順慶三府一帶の産に係はり内大河産小河産の別あり小河産は大河産に比すれば其品質稍々勝ると云ふ河南省紅花も亦河北、河南産の別ありて河北は衛輝府一帶より産し河南は陳州、開封の二府よりす該府に於ける紅花の産地を擧ぐれば鄆陵縣扶溝縣許州張潘鎮長郭縣洧川縣西華縣逍遙縣渭士縣等の諸地にして河南産は一体河北産に劣れり其山價の如きも河北産は百斤に付錢廿六七申文銀にして十七八兩河南産每百斤錢二十申文銀にして十三兩二三錢内外とす只河南産中許州逍遙縣の二所の産は外産に比すれば稍々優等にして其山價も亦百斤錢二十三申文内外とす該品を河南省周家口より運するときは干路八百四十里間小車を雇ひ三百斤を載し車脚六申文半月にして至ると云ふ又汴梁城よりするときは千二百八十里間大車を雇ひ四百餘斤を積み十申文内外にて達す可しと云ふ該品は毎年七

八日間に於て種子を蒔き第二年目の五月中旬より六月中旬に至るの間を以て之を掘出するときは滿地皆紅花を敷き甚た美麗なりと云ふ故に新貨の漢口に来るは年々七八九月中に多しとす

第廿九章 胡椒說明

總說

名稱	產地	數量	價格
白胡椒	廣東省廣州府	每担	貳拾兩
	暹羅國石嗽	全	貳拾貳兩
	臺灣省臺南府	全	拾九兩
黑胡椒	暹羅國石喇	全	拾貳兩
	呂宋	全	拾四兩五匁
	廣明	全	拾三兩

産額 以上各産地の中暹羅國を除き毎年の産額は凡ろ二億萬斤なり

と云ふ

輸入高 上海のみに輸入するものは毎年八百餘担

需用地の各省一般に使用すと雖も四川を以て最も多しとす

用途 藥種に供し又は料理の藥味となす

荷作數量區分 大數量は每包一百五十斤小數量は全く一百斤

荷作法 麻袋に入れ麻繩にて括る

荷作費 大數量は三匁五分小數量は二匁内外

日本に向け輸出 上海より輸出するものは毎年數十箱にして明治廿

四年度日本輸入總額は一萬二千七百十一斤其價千五百五十四圓卅七

錢支那總体より輸出の總價格は二十二年度に於て八百三十三元五十

五仙なりし

問屋 南市十六舖内の裕大號を以て著名なりとす

用稱 天平秤(十六兩一斤のもの)

用銀 九八規銀を用ゆ

運賃 上海より神戸港に至るの運賃は每担四十二三錢内外

税金 上海出港税は白胡椒每担關銀にて五匁黑胡椒每担全上にて三

匁六分なり

第卅章 銀硃朱說明

總 說

產地 廣東省廣州府及四川省

産額 廣東省は毎年平均六萬二千斤内外なりと云ふ

荷造及數量 廣東産は每包重さ一兩にして每箱に一千包即ち一千兩

を装入し外面を廣包うすべりのものにて包み藤蓆にて括る

荷造費 每箱銀四匁内外なり

需用地及需用額 各省一般に使用すと雖も就中江蘇浙江直隸湖南

湖北江西四川を以て最も好銷の地とし又上海のみにて銷費するもの

は毎年平均二千箱内外なりと云ふ
用途 漆細工及朱墨朱肉等に使用す

價格

三興硃	每箱	六十三四兩
隆華硃	全	四十八兩内外
文華硃	全	四十四兩内外
厚汜硃	全	二十六兩五匁乃至二十八兩
大興硃	全	五十兩
以上廣東產		
四川產	百斤	三十兩内外
用銀	九八銀を用ゆ	
問屋	上海に於ける銀硃問屋の著名なるものは新北門外新開河の同	
仁和なりと云ふ		

或は言ふ同仁和は新北門外にあらずして小東門外なりと未だ其
何れか是なるを知らず

輸出 明治二十二年度に於て日本に輸出せし金高は七萬一千三百九
十三元廿四年度は七萬四千百一十一斤其價七萬七千九百六十一圓四十
七錢

税金 清國輸出税は每百斤に付關銀二兩五匁にして日本輸入税は二
圓八十三錢五厘なり
運賃 上海より横濱迄每百封度に付六十五仙乃至七十五仙内外なり
と云ふ

第卅一章 茯苓說明

總 說

茯苓中には茯神雲苓茯苓の別稱あり各其形色を異にせり藥材の一種
にして能く我國人の知る處なり清國に於ける産地は湖北省の黃州府

内山を以て著名なり世人は此の内山産を以て雲苓と稱し誤傳して雲南産となせり其他湖南湖北地方に産するものも亦誤て廣東より産する處となせり該品の大なるものは重に四川地方に中は廣湖地方小形は廣東地方に需用多しと云ふ價格は漢口にて百斤七八九兩より十二兩内外片となしたるものは十七八兩四川重慶は十二三兩より片二十六七兩迄の處なり日本より明治二十四年清國へ向け四萬零二百六十一斤其價一千七百五十三圓八十一錢を輸出せり

第卅二章 籐說明

總說

產地 廣東浦東臺灣の三所を以て重なる產地とす
産額及品位 浦東より産出するものは毎年一百万斤内外とし臺灣同しく一百万斤以上とし廣東は不詳も性質粗惡にして應用甚た稀なり
品位は臺灣を以て第一とし浦東は之に次く

種類

籐の種類粗中細の三等に分別せり
荷造及數量 荷造をなすには外包を用ひす其儘繩を以て梱るを例とす每梱數量四五十斤内外なり
用途 用途は種々少しとせず其重なるものは繩索茶桶冬種の椅子籐棚敷物等を製するに用ゆるものとせり
需用地及需用額 各地に於て需用すと雖も寧波地方を以て最も多しとす上海に於て毎年銷費すると四萬斤以上に達すと云ふ

價格

臺灣正號粗	每担	五兩二匁
全 中	同	六兩六匁
全 細	同	六兩六匁
浦東正號粗	同	四兩七匁

全	中	同	五兩
全	細	同	六兩

廣東産は目下無貨價格不詳

賣買季 毎年上春を以て市場に上るものとす

問屋 上海に於ける問屋は南市大東門外の益慶一家とす

用稱及用銀 稱は會館秤を用ひ銀は九八銀を用ゆ

税金 清國輸出税金は毎百斤に付一匁五分とし本邦輸入税は百斤に

拾貳錢六厘五毛なりとす

輸入額 明治廿四年度日本五港へ輸入せし總額は八拾六萬零七百二十六斤其價五萬五千四百三十六圓九拾二錢なり

第卅三章 包蓆說明

總說

產地 廣東省地方より産出す

輸入額及種類 上海のみにて毎年輸入するもの一萬餘件に至れり而して明治二十四年日本へ輸入せし總高は二百十七萬千五百二十枚其價九萬六千七百七拾六圓二十五錢

荷造及數量

荷造は二百五十枚を一捆となし每捆大約二百斤内外なりとす

需用地 清國に於て重なる需用地は長江鎮江上海天津等の數所にし
て其他各路も之を用ひざるはなし

用途 専ら各種の貨物を包み運送する用に供するに止まれり

價格

包蓆 每千枚 三十八兩

賣買法及用銀 該品を賣買するには枚數を以て其價を論し銀は九八銀を用ゆ

賣買季 四時賣買するを得ると雖とも秋季を以て最も好銷なりとせ

問屋 上海に於ける問屋は棋盤街の廣昌順の一家を有名なりとす
税金 清國輸出税金は每百枚に付二匁なりとし本邦輸入は無税

第卅四章 花毡氈説明

總説

産地 天津牛莊地方より製出す
輸入額及び種類 毎年上海に輸入するもの大約一千枚内外なりし
種類は紅白の二種に分ち藍黃紅白相交へ牡丹花蝙蝠胡蝶電光等の模
様を附し大小細粗一ならずと雖ども凡ろ大なるものは二丈四方小な
るも二尺餘方に下らす
荷造及び數量 箱入又は隨意の荷造法を用ひ數量も隨て不同なりと
す
需用地 清國北部各省を以て重なる需用地とし其外上海及び本邦

等に輸出せり

用途 専ら部屋の敷物又は椅子蒲團等に供用するものとす

價格 花毡氈は大小粗細の品等に依り價格一ならず大約中形と稱す
るもの即ち長さ六尺餘幅二尺餘なるものは每一枚に付五元五十錢四
元三元五十錢三元内外なりとし上等品に至りては中形每枚十元以上
のものあり

買賣季及び用銀 買賣季は冬期を以て好銷とし銀は九八銀又は墨西
其弗の兩様を用ゆ

問屋 上海に於ける重なる問屋は法馬路の同順和なり

税金 清國輸出金は每百枚に付銀二兩五匁なりとし本邦輸入税は元
價の五分を要す

第卅五章 蔴袋説明

總説

第三編 補説説明 陸産物 第卅五章 蔴袋説明

產地 蔴袋の材料多く臺灣より産出し袋は統て需用地に於て自製するものとす
 産額及び種類 産額は不詳種類は粗細の二種に分ち大小の二様あり
 荷造及數量 蔴袋百個を以て一件とし繩にて括り大約百斤より七十斤内外なりとす
 用途 明ける大半は各港の貨物包に用ひ或は内地に於て米穀類等を装ふものとす

價格

蔴袋

粗細 個每百

八元五角
七元

賣買季 四時共に賣買をなすものなり

用稱及用銀 稱は天半秤を用ひ銀は墨西其弗を用ゆ

問屋 上海に於ける重なる問屋は永安街の合興の一家とす

税金 清國及本邦輸出入税金は共に元價の五分を要す
 輸出額 明治廿四年度日本に輸入せし總額は百零一萬六千二百八十八個其元價八萬二千四百五十四圓四十二錢

第卅六章 菓子説明

總説

產地 安徽省の寧國府湖北省各地及び本邦神戸等とす
 産額 清國産は毎年平均十五萬斤内外なりと云ふ
 荷造及數量 清國産荷造は篋籃に入れ繩にて括り每件百五十斤とし本邦より輸入するには蓆包にて可なり
 荷造費 每件銀一匁二分を要す
 需用地 天津四安青口の三處を以て好銷の地とし上海に於ては毎年二三百件を銷費す
 用途 外皮を除き料理用に供するも多くは釜中にて之を焼き點心料

となす

價格

上海に於て	寧國府產	每百斤	四元二角
	湖北產	全	四元八角
四安に於て	栗子	全	三元六角
天津に於て	全	全	四元
山東青口に於て	全	全	三元六角

用稱 稱は浙寧秤即ち我國の杜秤と畧ほ同し

賣買季節 每年秋冬の兩季に上市するものとす

問屋 上海に於ける重なる問屋は南市の大有協豐の二家とす

輸入額 上海は四五百件本邦產は輸入せず四安四五百件天津五百件青口四百件

内外とし每件一百餘斤を裝ふ明治二十四年中日本より支那へ輸出せ

し高は六千四百九十七斤其價二百九十一圓五十六錢なり又香港に向

けては拾七萬一千三百九十斤其價六千二百四十一圓七十六錢を輸出せり

税金 海關輸入税金は每百斤銀一匁を要す

第卅七章 白菓 和名銀杏說明

總說

產地 福建省福州府同省建寧府及山東一帶

產額 毎年凡ろ十二萬斤

需用額 上海のみにて毎年二千五六百斤を使用す

用途 葯材及ひ料理に用ゆるものは少くして概ね小童輩か間喰に食するものなり

品位數量價格 大粒物は每百斤に付き三元二角小粒物は每百斤に付き二元八角内外なりとす

荷造數量の區分 大數量は每包百七十斤入にして小數量は每包七十

斤入りなり

荷造法 蒲包に入れ繩にて括る

荷造費 銀六七分

賣買期節 毎年七八月より一二月に至る

賣買用稱 會官秤を用ゆ但十五兩を以て一斤とす

賣買用銀 墨西哥弗を用ゆ

問屋 上海に於ける問屋は南市の東具行なり

備考

明治廿二年の本邦税關年報を閲するに此貨の支那に向て輸出せし者は七千一百七十五元の金額なりと雖ども其何れの地方に輸入するものなるや上海に在りて之を調査せしも漠として其端緒を得るに由なし同しく廿四年には只三百八十斤其元價十五圓なり然れども香港に向ては十二萬八千四百二十七斤其價四千六百四十一圓九十六錢也

第卅八章 雞卵説明

緒言

雞卵は清國にては雞蛋と呼び北部地方の人は鷄子兒と云ふ江蘇浙江の兩省は雞蛋産出の重なる地方にして我國に輸出するもの年々其數を増し今や殆ど三萬圓の巨額に上れり而して雞卵輸出港なる上海に集合する所の者は遠きは或は二百清里近きも七八清里の地より輸送し來る者にして其重なる産出地を擧ぐれば即ち左の如し

上海に運送し來る重なる雞卵の産出地

江灣 上海を去る十八清里 通州 上海を去る百八十清里

大場 上海を去る廿四清里 海門 上海を去る六十清里

南翔 上海を去る四十八清里 松江 上海を去る六十清里

法華 上海を去る八清里 石門 上海を去る百六十清里

七寶 上海を去る四十八清里 平湖 上海を去る二百清里

泗溼 上海を去る八十清里

雞卵の品質並産出地に於ける購買價格

右の各地より輸送する者の内近地産出の分は品質佳良にして味殊に美なれども遠隔の地より來る者は同港へ達するまでに若干の日子を要する爲めにや其價稍降り而して江灣産一等品は其形大にして色白く味極めて美なるか故に産地買入の價毎個に付五厘内外とす又泗溼七寶の産は其形尋常にして色白く品質味共に江灣産に譲らす然れども其産地購買の價格は常形に屬するを以て每一個に付四厘乃至四厘半とす南翔法華大場の産は之に亞き平湖石門の産は亦之に亞く江北と稱する通州及ひ海門の産は其形大なれども色赤く品位稍劣等に屬するを以て産地購買の價も隨て低廉にして毎個三厘乃至四厘とす

上海に輸送し來る一年間雞卵の數量

江灣より來る者 毎年四百二十萬個内外

- 大場より來る者 毎年四百六七十萬個内外
- 南翔より來る者 毎年六百萬個内外
- 法華より來る者 毎年五百三四十萬個内外
- 七寶より來る者 毎年三百萬個内外
- 泗溼より來る者 毎年五百二十萬個内外
- 平湖より來る者 毎年其數幾何もなし
- 石門より來る者 毎年一百萬個内外
- 通州より來る者 毎年六十萬個内外
- 汝州より來る者 毎年五六百萬個内外
- 松江より來る者 毎年二百萬個内外

總計四千七百萬個内外此外上海近在産する數量は不詳

上海に於ける雞卵の相場

以上各地産を論せず刻下上海に於ける現市は每一個七厘の相場なり

とす斯く廉價なる理由は産出地の供給甚だ多く随て輸出すれば随て輸送し來り缺乏の時なきに由る若し一歳を通して之を言へは清曆九十の兩月は輸送の量極て多く日本へ輸送するもの多くは此兩月間に在るを以て價較騰貴し四五の兩月は腐敗の恐あるを以て價一層低廉なるを常とす然れども概して之を言へは價格の變動極めて少なき方なり

輸出

上海に於ける毎年の需用額は一千八百萬個内外にして上海より他の地方に輸出するものは毎年六百萬個内外其内日本に輸出する者は毎週五百箱なりとす一箱は四百個入なれば毎月八十萬個の割なり廿四年日本へ輸入せし税金額は三萬三千四百四十一圓六十六錢箱は石油箱にして四百個の雞卵を入るゝを常とす上等物は重さ一兩三匁にして價は二元八角なり

上海より日本横濱まで運賃税金共合せて每一箱八十仙を要す但し日本海關には雞卵の輸入税なし

上海に於ける雞卵問屋

原生蛋行 小東門外に在り

恒順蛋行 全上

協記蛋行 三矛家橋沿濱に在り

和記蛋行 三矛家橋南法蘭西地界に在り

皮蛋

皮蛋は家鴨の卵の上好なる者を選ひ而して石灰粘土食鹽及び通常の灰と米の殻を調和して能く練り雜せ之を空氣の漏れざる様に能く其卵に塗り付け置くときは其蛋黃は自然彩綠色に變すへし若し成る丈け久しく保ち置くときは其色愈黒くなり随ひて其風味も格別なり此皮蛋は支那料理中にも必ず一蛋を三四塊に切り之を小皿に盛り配列

するを見る江蘇省各地に出つる者を第一とす一千個に付價銀六兩位
なり輸出税は毎千個に付銀三錢五分にして上海より輸出する者毎年
二百五六萬個内外とす

雞蛋の新古を驗する法アメリカンヒツク

雞蛋は產地後時日を経過するに従ひ其蜜度を減するものなり故に一
器中に食鹽二オンス七オンスハ我を水一「バイント」我三餘餘に混合して一の
溶液と爲し之に投するに新鮮の卵を以てせば卵は器底に沈着するも
若し之に代るに産出後一日を経たるものを以てするときは縦令沈没
するも器底に達せざるへし又三日を経しものを以て試みるときは敢
て浮沈するとなき溶液の中途に止まり三日以上を経過せしものに在
りては水面に浮ひ出つへし此の如く産出日數を経ると多きに從ひ益
浮上するなり

雞蛋保存の方法佛國農業新聞抄

雞蛋保存の方法に種々ありと雖とも最も實際に適するは石灰水なり
とす其仕方は底の尖りたる粗製の壺の中に雞蛋を入れ上より石灰一
「キロ」凡二百六十六匁水十「キロ」より成れる石灰水を注ぎ掛け其後蓋を
加ふるに在り而して右の雞蛋壺は日光を避け之を土窖中に貯へ置く
を要す然るときは此壺中の水面は空氣に含有する炭酸に接觸して炭
酸鹽石灰の外皮を形造り雞蛋を出す時または外皮の破るゝとなし巴
理府に於て上の如く石灰水にて貯へ置きし雞蛋を秋末より初春に掛
けて賣出したる高の多きは世人の能く知る處なり

第卅九章 熊掌概畧説明

緒言

熊掌は熊の手足の掌を其儘乾かせしものにして其の別圖の如く味は
燕窩と同一別に好味あるにあらず唯其の珍しきを貴ふより來りし贅
澤物にして珍客貴賓に供する珍饌なれば貴重にして價高けれども需

用額は至て少し

名稱

名稱は即熊掌にして支那山珍の一なり其味腥くして鮮魚に類す故に又た珍鮮の名あり而して其の實なしと云ふ

産地

産地は滿州を第一とし四川雲南之に次く

用地

用所は北京及各省の官場に於て上等の筵席及贈物に使用す

用法

用法は其筵席ある三日前より料理に掛るものにして先づ其毛を焼き尙燒古手を以て其外面を焙し毛盡き外皮少く柔かなるを待て其外層の粗皮を剥き之を煮て其碎骨を除去し再ひ其筋肉を煮て殆ど溶爛に至らしめ其味を佐くる爲め雞鴨等の汁を和し以て大碗に盛り珍饌に

供す

價格

價格を定むるには手足の掌を蔴線を以て繋ぎ之を一對と稱し一對を以て價を論ずるものにして當地目下の相場は重さ一對一斤のものにして六圓小なるものにて一對四五圓なり

第四十章 錫說明

總說

錫に數種ありて一を高錫一を衡點錫一を雲點錫一を洋點錫一を鈎光或は慶錫と云ひ衡點錫は湖南衡州府の産にして洋點錫は新嘉坡暹羅麻刺加半島の諸産雲點錫は雲南慶錫は破壊せる錫器を再溶せしものを云ふ凡て點錫と云ふは皆上等錫の名目にして次等に至れば又九層八層七層より三四層或は成色一折二折三折四折五六七八折等の區別あると猶ほ銀塊に九九銀より九四銀に至る等の區別あるに異ならず

第三編 補欵說明 陸産物 第四十章 錫說明

即ち其塊中幾分の純銀あるを見ると一般なり
品位 白黄色にして堅きものを佳とし黒鉛色を帯ひて軟きものを下
品とす

荷造 何れも皆な無皮なり

需用地 各省一般

需用額 上海のみにて毎年平均雲點錫を二千担内外衡點錫を三四十

担洋點錫を一千條一條は八十斤を使用すと云ふ

用途 清國にては其用甚た多く食器花瓶蠟臺火燈茶酒壺盆器藥器等
の材料に供す

價格

漢口 上海

衡點 百斤 二十一兩

洋點 全 二十八兩

雲點 全 三十三兩

鈎光 全 六兩六匁

高錫

用稱及び用銀 稱は天平秤を用ひ銀は九八銀を用ゆと雖とも洋點の
如き洋華商間の取引は皆磅を用ゆ

仲買口錢 每百斤の價格中より一匁を申受るの習慣なり

問屋

漢口 上海

順祥行 專營洋點錫 啓昌 小東門外 衡點錫買商

毛吉昌 衡點錫買商 同昌雲 法大馬路 全上商

德順全 同 公興安 二馬路 雲點及び洋點錫商

蔡順發 同 義茂昌 法大馬路 全上商

童義昌 同 順記 三馬路 全上商

義興永 同
 合順祥 同
 黃義順 同
 張祥興 慶錫賣買商
 杜祥興 同
 杜同勝 同
 徐德祥 同
 周源順 同
 張永元 同
 彭長泰 同

輸出入額 洋點錫の輸入は毎年平均一百九十六萬六千五百卅弗内外にして自國産錫の日本に輸出する者は明治廿二年度に於て一萬六千二百五十四弗なり而して廿四年度に於て日本五港に輸入せし總額

を舉ぐれば廿一萬二千二百八十斤其價七萬一千七百廿圓五十四錢也税金 清國輸出税は每百斤に付關銀一兩二匁五分にして日本輸入は全く九十四錢五厘なり
 運賃 上海神戸間は每噸五元上海横濱間は每噸六元なり

第四十一章 鐵說明

總說

鋼鐵は從來問屋の設けなし其産處に於て或は鑄るに器を以てし或は鑄るに條を以てせり器なるものは商賈の手より運販して各埠に至り需用者に分賣し條なるものは先づ販賣者より地方官に稟具し藩司に轉詳して保證を付與するときは乃ち能く指定の販賣地に護運するを得並に某處産の條餅、包、鋼、銑版、廢鐵等の名を註明して一萬五千斤を以て百担となし期は七十五日にして三千里に運ぶを以て限りとなすの外風雨阻滯の期を兩月に限り其地方官に保證を請求して以て起運の

處に咨歸するに便にし以て私販夾帶の弊を杜く所以なり且つ之に憑りて税金厘金を徴するものなり或は半器にして半鐵なるものは其號舖より小賣をなし各處に於て煉る所の鋼は自ら必ず鐵及び器に配附して出賣す惟蕪湖の花鋼は品質素より佳良なり近ろ漢口の煉鋼に壓倒せられて暢行すると能はず四川産は固より佳品あらず販運するものも亦多からず湖南産は固より多額なるも半は漢口の鋼に供用せり山西の鑄器も亦多しとするも遠路水運の不便なるにより南行すると頗る少し武昌漢口は已に治坊を設け湖南の鑄器は稍や該處に於て銷費するものなり加ふるに洋産の鐵頁鐵絲鐵條厚薄粗細方圓等の物ありて工を減し用に適するものあるを以て内地産に至りては皆廢滅するに至れり是を以て洋鐵を專業とするものは近年各類の物を兼業して號舖を設けて盛に經營し他業を顧みるものなし而して内地産の條餅の大なるものは刀斧大器等を作の用に充て洋條は鉤鉗等の需め

に應し頁は鎖包物の用となし絲は釘を作るものとし其鋼と器との如きは内地産は内地の需用に充て名稱繁しくして用法多く一物に付一名ありて錯雜にして詳記する能はず如し詳記を要するときは再録すへきも以上述ふる所ろを見れば其景況は已に概見すへし

第四十二章 金銀説明

總説

金、銀は鑄煉より成るものにして元寶、條、錠を除くの外に金葉、金箔、銀箔、泥金、泥銀等の名稱及び金、銀、首飾、器皿の類あるも何れも問屋の設けなくして舖なるものあるのみ各省の大埠には皆工作するものありて就中江西、浙江、地方を以て多とせり而して品質の佳なるものは尤も廣東の葉金を第一となし其他は皆及はざるものなり而して金葉は名を首飾舖中に托して沿途携帶して買賣するも税、厘、用、捐等の煩ひなし四川、地方の金を産するの處に於ては固より金店の設けあり然れども亦銀

錢を替換する方法の如きに過ぎず僅に時價に漲落の不同を生ずるあるに止れり金は頻年産出するあるも呂宋より來るものも亦少しとせず而して價は總て二十換内外とす之れ富貴の家に於て蓄積するの故なるか又は首飾、器皿の用に銷費するの故か而して金銀箔、金銀泥に耗費するもの之れに比すれば尤も多額なり此の三業は近年益々日上の業にして或は作偽人を欺くあるを免れず其浙江人の設くる所の舖は潤大輝煌にして包管回換共に人盡く之を信し江西人の工舖に至るまで其擧に效ふに至れり之れ江蘇、浙江人の舖面の勝れるに如かざるを以てなり而金箔、泥金の利益は首飾の店舖に比すれば之に陪するものなり蓋し之を裝潢に用ひ或は繪畫して消没するを以てなり、人の葉、箔、條、錠を換買するには惟其物上に號印、或一紙の包票を證據となし偽物と雖とも直となし恃む所のものは如し假包あるときは之を換ゆるの一言あるを以て設ひ偽物あるも彼れ即ち號印を驗して之を更

換するものとせり其婦女の首飾及び私集の金に至りては之を信して疑ひなからんとするも何によりて其偽たらざるを知らんや況や金は其色澤の如何によりて勘定するの一途に過ぎされは固より銀を以て金となし銅を以て銀となすにはあらざるなり然れども此の金、銀、をもちて他處の他舖に就きて替換するときは金は每兩二分を減し銀は毎兩二錢を減するの慣例にして之を毛水と謂ふ其先きに工作せし費の加三、加五の代價は己に烏有に歸するものなり惟京省の庫銀は之を減すると僅に數厘に止り票號、銀號のものは或は分を減するものなり故に現在洋銀は大に南省に行はれ票號、銀號、滙兌の利は幾んど銀行の奪ふ所るとなるは蓋し此に由るなり廣東新鑄の銀錢は其數多からざるを以て尙ほ未だ權衡を市廛に争ふ能はず

第四十章 硫磺説明

總説

硫磺の一業は向きに禁物たるを以て專賣の問屋及び舗なるものなし其藥品に用ゆるものは藥材問屋中に於て取扱ものとするも亦僅少なる需用に止り其餘は各埠の花爆舗より一人を公舉して總督に稟請して官有の硫磺及び硝藥を以て各花爆舗に分賣するものにして之を官礦局となす或は各省の火藥局中より分出するとあり而して各省に於て火藥を需製するときは各督撫、藩憲より委員を派して山に近き處の産炭の區に就きて採辦するものにして税厘、捐、用等を要するのとなし僅に車、船、挑、負の運販費を要するのみに止り沿途は免狀に據りて通過するを得るものなり官礦を承辦するものも亦必ず預め藩司の免狀を稟請して以て私販の弊を杜くものなり而して免狀額は僅に百担を限り許可するものなるに販運するものは常に千担たらずのものを取扱へり免狀期限は一年とするも販賣者は幾んど二年たらずに至るとあり其私販、私賣するものは湖南湖北地方を以て甚しとせり河南の回

人の回々か教は尤も顧忌するとなし販賣し他處人に於ては稍や遠慮して販賣するものとせり其産處は四川、湖南、を以て多しとす山西、甘肅、地方も之を産すると少しとせす然れども混合物多くして清潔ならずして炭船より私販するもの多しとす價格は官礦に比すれば概ね半額にして惟之を以て洋藥を製造するときは費多くして品質佳良ならず官府は洋産を購求する毎に必ず大憲の照會狀を以て證據となす否からざるときは論するに私を以てす臺灣の礦は洋産に類似して且つ多きか故に臺灣巡撫は各省に通咨して局を設けて分賣すると幾んど鹽務に類せり其後各省の土産に影響するあるか爲めに復た商賈に命して兩種並行して悖らざるの方法を定めたり要するに臺灣産は價格稍や貴くして取引上活潑ならず是を以て臺灣産は需用隨て澁滯せしを以て漢口及江西、河南に分賣局を設けたるも今復一律に大賣捌に変更せり

第四十四章 銅、錫、鉛、説明

第三編 補缺説明 陸産物 第四十四章 銅錫鉛説明

銅、錫、鉛の三物は元と一營業にして近年營業上大に變更を生じたり雲南の白銅、漢口の囊歸、毛濟昌は上等免許狀を有せる專賣問屋なりしに銅頁の外洋より輸入して代價の低廉なるか故に各工は便宜によりて争ひ用るゆに至りしを以て銅、鉛、問屋は一敗して振はず近年に至り銅頁營業も亦洋産の銅母の奪ふ所るとなれり蓋し各工は銅母少許を以て合するに紅銅、白鉛を以てして之を鑄るときは即ち洋白銅と異なることなく價尤も銅頁よりも廉なり而して又製造に適當せり故に雲南の白鉛は僅に官用の爲め北京に運販するに止り而して銅頁は幾んど棄廢物となれり紅銅、黑鉛の塊は市場に需用すると従前に異ならずと雖とも鑄造する所の山廠は先きの天和山、立里山にして今變して琉球、國盛、金川等の字を附するのみ價格は以前に比すれば稍や減却せり點銅は衡州、叙州より分運し洋銅と稱するものは價格點銅よりも貴し響

銅は湖北、江南の産にして販路は前日に異ならずして盛衰なし其黑鉛白鉛の需用は較や前日よりも廣くして價格は異常なし以上は漢口、堤街の洋銅、錫、鉛、鐵條、鐵絲の小賣舖に就きて述記せし者にして問屋は關係なきものとす其各舖又た上海の小東門一帶の地に分設して各洋産の銅、鉛を買收して内地に運販するに關稅を要するも厘稅及び問屋口錢等を要せず故に該業を營むものは漸く盛大に赴くの模様あり蓋し能く機に隨ひ變に應じて世と推し移るものと謂ふへし上海の銅、鉛問屋は洋商と連絡して現に營業中の巨擘と稱すへし而して漢口に於ける取引上の權衡は錢平の十六兩一斤のものとし銀兩は九八平の九八兌を用ゆ上海は西洋の規則に従ひ九八六平九八兌にして磅は浙秤の七五折の一斤なり又た仲買商なるものありて問屋の手先をなし販路のみに付ては問屋より却て習熟せるものなり而して此の仲買商なるものは各業何れも之れあらざるはなく僅に銅鉛の一業に止まらざる

ものなり

五百五十四

第四十五章 醬油説明

總説

近來日本醬油製造家より清國へ向け醬油の需用如何を問ひ來るもの往々之れありと雖とも該品の清國に對する輸出方は随分一難事たるを免かれず如何となれば各地共に之を産出する耳ならず慣習の久しき容易に之を破徹する能はざるへし清國製一斤の價は四十八文より六十四文八十八文九十六文百二十八文に至り大賣は百斤三圓内外とす試に日本製三斤即ち一升二十錢と見る時は其價引合はざるにあらずと雖とも之か運賃荷造税金諸懸雜用を精細に算し來らば又其如何なるを知らず明治廿四年度支那へ向け日本より輸出せし總數は五千六百八十一斤其價千百三十五圓零四錢香港へ七千六百零二斤其價九百五十四圓零五錢なり然とも是は重に我國人の需用にして未だ支那人

の需用に供するとを聞かす現に一昨年乾醬油(大阪製)の販賣を試みしとありしも苦心の末遂に其結果を見さりし然れとも同じく需用品たるか故に舊慣を破却するの力を以て之に臨めは或は後來意外に好結果を得るも亦知るへからず現今上海に西洋人向として販賣するものは上等半磅入(瓶入)三十五錢下等十三錢每箱二十四瓶入と四十八瓶入とあり一打の價は一圓より三圓迄とす

日清貿易方針の演舌

説明員

清人

私は清國湖北省漢口の者て此度兼て知遇を得て居ました日清貿易研究所長荒尾精君の招聘を受け喜んで當地に來り此會に臨んた譯て今日幸ひ此大衆諸君と御面會を得ましたから日清貿易上に就て聊か臆見の在る所を述べやうと思ひます

今日此東洋にをきましては實に貴國と弊國とを措きて他に國と稱すへき國体を具へたるものはありますまい故に東洋を盛に致らうと思へは必ず貴國と弊國と始終相待つて奮進せねはなりません然れに兩國の親密を保つには貿易か誠に捷路と考へます就ては是より充分貿易事業を研究して貴國の人も澤山弊國に往かれ弊國の者も亦た澤山貴國に參る様になれば従つて相親むの情を増すのみならず御互に益々富強に進むと存します私か此度貴國に漫遊して事々物々眼を注ひて視まするに風俗と云ひ習慣と云ひ又日用の器具と云ひ都て衣食

住の有様は我國と殆んど一樣で御座ります故に些しく日本の物を改良すれば弊國人の嗜好に適し又弊國の品も聊か改良すれば貴國人の用に供せらるゝ事は至て容易の事と存せられます然るに曩きには朝鮮の事變琉球の紛紜又近くは長崎の事杯もあつて互に一部の者は多少の敵意を挟みし事もありしなれども今日より之を見れば止た一時の争ひて如此小事を以て互に敵意を抱き反目一致するとか出來なひ様では到底東洋の富強を圖る杯は思ひもよらぬ事のみならず實に歐米人に對じて耻辱の限りてありませんか此日清の兩國は實に唇齒輔車の關係で清亡れば日も亦危く日若し亡れば清亦亡るを申す様な至深の間柄であります故に何處迄も相親睦して此世界に立て行かねばなりません此世界に立つには富と云ふとか必要で富を得れば隨て強兵の道も就き決して外國に蔑視せらるゝとはありますまい故に御互に益々親睦を増進して共に富強に進みたいと望みます就ては是より

捷路なる貿易上の御咄を致しませう

諸日清貿易の有様を視るに從來貴國より弊國に向つて輸出に成り居るものも少くは有りませんなれども未だ決して隆盛とは云はれません彼歐米人が弊國に對する貿易の有様と貴國人が弊國に對する有様とを比較するときには貴國人は歐米人の十分一にも及ひません噫彼の滔々たる長江二千清里の沿岸市場賑々たる高屋大厦も又黒烟天を蔽ふて東西に奔馳する巨大の漁船も皆彼の歐米人の所有に屬せり然るに貴國は僅に一葦帶水を隔つる近國でありながら遙に彼遠洋萬里を隔つる歐米人に劣るは兄弟の國として實に遺憾至極に思ひます貴國人が將來弊國に對して貿易を爲さるゝに付ては御忠告があります抑も弊國には四個の重要な貿易地か有て其一は上海一は天津一は廣東一は漢口と申します天津に屬する部分を申せば直隸盛京山西陝西の四省であつて此四省の貨物は皆一應天津に集まり又貴國より

天津に往く所のものも此四省に向つて往くのであります次に上海の部分に擧ぐれば江蘇浙江安徽の三省廣東の部分は廣東廣西福建臺灣の四省漢口は弊國中央部の一大貿易場でありて四方水陸の要衝に當り直接に取引をする所の地方は湖北湖南河南陝西甘肅四川貴州雲南等の八九省にして運輸交通の至便至盛なる恐くは此地の右に出る所はあるまいと存します近頃聞く所に據れば貴國の大臣にも日清間の條約を改正して内地雜居を許すよふにするとの事て弊國に於ても亦其局に當るの人か此事に苦心して居ると云ふとてあります若し内地雜居の許された曉に至れば此四ヶ所を以て目的として益々貿易の事を盛んにやらねはなりませんからして今貿易品に付て少しく御注意を促して置きます

弊國に對しては貴國の貴重する所の美術的の物は先つ向かない方てあります今西洋人と弊國人との氣風を比較すれば大に異なる所か有て敵國に於ては百年前に行はれた所の物は今日に至りても矢張百年前の形を以て行はれて居て改良杯と稱へて新奇を好むの風は薄ひ然るに西洋人は之れに反して新を喜ひ奇を好むの風がありますからして西洋に向ける工藝品杯は利益の多い事もありましたようか又損失も御座りましよう其上工事が繁雜に堪へないてありませう之に反して弊國は永く同物を用ひますから貴國の人か安心して其業を執るとか出來ます故に西洋に對するよりは弊國に對して貿易をなす方か余程安心してあります且つ弊國人か何故に貴國の物を愛するかと云ふに貴國品を弊國品に比すれば細工か巧みにして價か安い加之風俗か近いからして器物も好く省て居ります又天産物海産物の如きは本より貴國の供給を仰て居るので年々輸入額か増すのみにて減るとはなく益々望かあります工藝品の如きも弊國の人は細工か下手て模造か出來ませんから將來に充分の望かあります

聞く處に依れば貴國は近來萬事に注意して頻りに改良々々と云ふとか流行するさうてすか弊國に對しては別に改良と云ふ事の必要を覺へません需用の上に於て弊國の土地を分ては天津はどうとか廣東はどうとか各々地方に依て向きか違ひますけれども只同じ品で上下の區別があれば足れるので別に改良を要しません然るに貴國人が餘りに改良々々と云ふて良い品のみにして仕舞ふては却て需用が少くなるので必ず上中下の各種を備へて上は何處下は何處と其地に適した物を向けなくてはなりません今其土地を別ては北京近傍は總て上等品が向きます其次は上海廣東て此邊は上中の品が多くて下等品は向き少くないのであります次は漢口近傍て此邊は概して下等品の需用が多いのであります此の如く各地需用の度か違ひますから上中下共に入用であつて只其割合を圖つて製造すれば好いので別に改良々々と稱へて上等品ばかりを造るには及ひません

又模造の點に於ては弊國の物に模造して好いものと模造しても利益にならないものとかあります頃る貴國ては木棉を持って往たらどうか絹を持って往たらどうかと云ふと言ひますか是等の物は余程意を用ひなくては弊國人の嗜好に適するとか出来ません昔は貴國の幅物を多少用ひましたけれども今日は大幅の物のみになつて居ますから貴國の幅ては向きません故に寧ろ西洋の物を模造した方が好いてあらうと思ひます

思ふに今日は貴國人が弊國に向つて貿易をなすへき肝要な時であります追々北京より漢口に向けて鐵道か通し汽船も亦漸次内地に通する様になりますから貴國から持つて往く物貨を汽車汽船の便に據て各地に運搬するとか出来ます左すれば運賃か安くなり随つて物貨を安く賣るとか出来ますから其需用も増して來て貿易は益々盛んになる譯であります故に今日より弊國に對する貿易の道を充分に研究し

て其準備をなさねばならぬと思ひます
 以上申述べた所は其概略に過ぎません其他詳細の事は説明員もあり私
 も亦此處に居ますから御質問を受けても構ひませんか尙ほ研究所も
 出来て居ますから該所に就て御質問になつた方か好からうと思ひま
 す種々詳細の事は到底述へ盡すとは出来ませんから是て私は此席を
 退きます

日清貿易上の注意

説明員

私は是より日本人か支那に對する商業上に就て最も不注意なる點を
 擧げて將來に注意を望みたいと思ひます併し此の御咄は決して少く
 ありませんから其積りて御聴き下さい其處で日本人か支那に往て商
 賣を仕様と思つても未だ其用意が出来ていませんから此點より御咄
 致します

偕て是より彼れに達するには川かあれは橋かなくてはなりません向

ふに甘ひ物美しき物かあれは之を探りたく思ふのは人情であります
 けれども橋か無くては渡るとも探るとも食ふとも出来ない

第一運輸上に就て申せば内國船にて目下支那へ航路を開ひて居るの
 は唯た郵船會社の船か二三艘あるのみて各港の日本領事館は未だ内
 地の事を詳しく報告するとか出来ぬ位ですから充分なる満足を我々
 商人に與ふるとは勿論出来ません之れは獨り領事の罪ではなく實際
 に出来難ひので御座ります夫れは全く我官民か之れ迄日清貿易に冷
 淡て在つて交通の橋を造てなかつた罪て取るべき物を取り食ふべき
 ものを食ふとか出来ないのです併しなから此等のものか備はらない
 と云つて我々は捨置く譯には参りません宜しく官民協力して進んで
 其橋を造らなければなりません泰西諸國ては新たに貿易を開くとこ
 ろへは第一着に軍人宣教師杯か往て其國の地理人情を取調へ之に次
 て各種の専門技術家か自己の専門に關する事柄を調査し然る商後人

之に次ぎ商賣上の事を調査し商館を設け尙ほ進んで商法會議所杯を其地に創立して諸般の報告をなしそれから銀行諸保險會社等の如き商業社會を組織する所の各種の要素が出来て往きまするんな風に漸々進んで往くのてすか今日支那に對する日本商業社會に於ては此等のとか手落になつて居る様であります然るに今日にて日清間の貿易は通商諸國中第二三位に居りまして尙ほ之より年々増進するの見込は有りますけれども何分にも貿易の要素が缺乏して居る所より其貿易品は日本人は取扱ふと能はず却て支那人或は西洋人の手より輸出して居まして彼等の其間に周旋し莫大の利益を獲るから其利益を我國人の手に入れたいと思ふても悲哉肝要なる其要素が成立て居ないゆへ甚だ六かし御座ります在上海香港バンクと云ふ英國の銀行杯は自行に於て發行する所の紙幣を以て通用して居ますか若し日本人が各開口場に銀行を開き爲替の取引杯を滑らかにして日本の通貨を

取引上に使用する様になれば何程便利か知れませんが是れは只一部分の冀望てありますか一般のとか斯様な風になつて來れば非常の便利で御座りませう凡る社會の事物を通觀するに先づ已れの國人が多くと交通往來する地は諸事萬端首尾相通して殘す所なく誠に都合好く自己の意を満足させ得るの方法や物品等が遺憾なく出來て居るものてあります例へは東京ても熊本人の定宿には熊本の事に詳しい人か居る様な譯で西洋人杯か支那に往つて金儲けをするのは總て其人に對する便利な事か揃つて居るからであると思ひまするれて日本人の支那に對する貿易は後來に望みのあるものてすから必ず日本人に便利な事物を完備さゝねはなりません若し汽船も盛んに往復する様なれば從つて運賃も安くなり銀行保險會社等も出來ますれば爲替も通し貨物の保險杯をも托し得て初めて勇敢事に方り後の憂もない様な譯で又俱樂部も出來宿屋も便利になつて日本人と爲めに通辯をす

る人位は雇つても有ると云ふ様な段々と此れ等商賣社會の要素が相
 連続して來なければなりません目下日清貿易の發達を妨碍して居る
 のは全く是等の事柄が欠點になつてゐるから御座ります故に日清
 貿易に注意なさるゝ御方は今日より此等の要素を組織するとに盡力
 あらんとを望みます
 ろれて一例を挙げますれば郵船會社の船より運賃が安い外國船が御
 座りますけれども送状を書くにも歐文で無ければならないと云ふ様
 な不便が多いから少々は高くても日本の船に積むと云ふ様な譯であ
 ります英國のビーオー會社が英政府の保護金を受けましたのは一寸
 我々か考へると英國政府に不似合なる商零の様に思ひますけれども
 自國の人か乗つた時言語も不自由なく書類も自國の文で分りますゆ
 へ總ての便利が有ると云ふ様な事のみでは御座りません一會社の營
 業としては利益の無き所に航路を開くとは固より好まざるとにして

又實際出來得へき事御座りませんか其國の貿易をして將來發達する
 見込ある者と認定したる地方には彼の會社に保護金を與へて自國商
 人の往來を便にした譯で御座ります彼の英國は自國の語をもつて亞
 細亞諸國に全く通せざる地のない程の便利を有しなから尙お斯様に
 注意が行き届ひて居ります況んや我日本語は一步にても國外に出つ
 れは之れに通ずるものは一人も見出さない位でありますから尙ほ更
 斯の如き商略は政府の事業としても然るべきと思はれますゆゑ我
 國人も何卒早く此等の要素を完全せしめねはなりません
 次ぎに日本の商人が向ふに往くと兎角入費負けが多やうに思はれま
 す何處の人ても他國では費用の多いものてすけれども日本人は別し
 て多ひ様で有ります之れは向ふに往ひて僅か一ヶ月に五百圓か三百
 圓の商賣をなすものか立派な洋服を着けて馬車に乗つて歩く人もあ
 ります勿論是等は固より奢りてありますけれども其様な事てなくし

て實際に餘計の路用かあります例へは言語か通しないから車夫杯か無法を云ひかけましても警察署へ往くは面倒だから彼の要求通りに金を遣つて置くと云様な語の通しないとか事情の分らないとか云ふところから一寸した事の爲めに實際無駄な金を費さねはならんとは有勝ちのとてあります是等は止むを得ないのでありますけれども兎角日本人は外見を飾り過ぎる風かあります西洋人杯は随分支那人に負けない様な醜ひ風をして裏長屋に住んで古靴杯を賣り段々と仕上けて行く者かありますか日本人の習慣としてめ兎角初めから立派な事のみをなし左程骨も折らずに甘ひ事はかり成したかる風かありますして遠き慮りかないには實に困つたもので御座ります支那人や西洋人には初め一寸したる鍛治屋杯より刻苦勉勵して遂に大なる製鐵所杯を建設するものか多く御座ります日本人は四五年間も辛抱して少しく貯蓄でも出來ると直ちに歸國して威張り散らした

い風か御座りまして同一の事業を長く維持するの勇氣に乏しく又其消長に依て數業に轉する様な傾きかありますかあれは一番惡ひ風儀と考へます

儲て次きは統計の事てありますか支那の海關報告及ひ其他の統計類はないよりは優つて居ますけれども一向頼みになりません半分は間違つて居ます日本の方は近來學問上の思想計り増長して氣か頭に上りて高尚な事計り考て實際には間に合はん人か多く學藝上一の弊害てありまして空論ては仕方か御座りませんそこで支那に於ける統計の事も熱心に身自ら歩き廻つて調へるよりは税關報告を一見すれば分る様に思て居る人か多い様ですけれども統計計りを當てにし居ると大變な間違ひか起ります上海には俱樂部か有て其處から毎週物價表を發兌致します又たデリーニユースと稱する新聞か有て之にも物價表を出しますか夫れを以て自ら町々へ往て戸毎に調へて見ると實

際悉く違つて居ます何故にデリーニユースかあんな違つた事を出すかと思つたともありますから西洋の者が書ひたものも當てにはなりません何んでも自分で實際に調べて見るより外に仕方ないのです之に付ても物價表などは勿論現に西洋人が年々發兌する「デスクホン 그리스」ト云ふ様なものを我國人の手より出したいものと思ひます次に我國人は支那人が團結力に富て居るから敵し難いと云ふ考を抱て居る人が多い様でありますか是れは大變な間違て團結力は支那人よりか却て日本人の方が強ひのでありますけれども日本人は其團結力を實際に利用するとか拙いのでありますして支那人は其脆弱なるか石鹼とか蝙蝠傘とか云ふ様な品を持って往くと支那人の同業者か聞出して仲間中に報告しますと直に談合して各自持合せたる品を集めて一時之を市場に抛け賣りを致しまして相場に非常なる變

動を起させそうして日本人を困らせるとか往々有りますと云ふ事と持ていた日本商人にして其事情に通せざるか資本の少なきものは宿料か一日一圓も掛るから持支へるとか出來なくなつて驚いて仕舞ますういふ事情を知て居る人は一向驚かすして却て彼の投げ賣したる安い品を買込んでデット構へて居る位でありますけれども知らない人は宿錢を費やした上に投げ賣をして仕舞ひやれやれ決して二度と支那へは往くものではないと申します然るに支那人等は新來の日本商人に其商品を投げ賣せしめ勝利を得たる後は再び各自勝手次第の直段で賣買をします左様云ふ風に忽ち自分等の頭の上に損益の落ちて來る時になると直ちに團結をします然るに日本人は平常は交際をして居ても敵を見て狼狽し少利の爲めに其節を折る様な事をするものかありますけれども是れは必竟外國貿易の未だ幼稚にして經驗の少なきと自家の團結力を適用するの時と場所とを辨別するとの出來

ない結果て御座ります併なから支那人の團結は恐るゝに足らないゆへ只夫れに構はず持ち堪へれば善ひのであります

次は支那人との交際の事てありますか彼の事情に慣れない間は實に支那人との交際はいやであります何故なれば實に不遠慮至極て人ど咄して居る前て痰を吐ひたり手鼻をかんだり虱を潰したり放屁したり立派な絨緞の上に水烟の殻を投げたり又た日本の天皇陛下は吳の泰伯の後裔とか或は琉球の事朝鮮の事杯を持出して何となくいやらしき氣味て小當りに當たる様にします其時に氣の短ひ人は此の不敬なる語は復仇するか爲め御前の國の天子の出た所の滿洲人は日本から逃けて往つた義經の子孫た杯と云ふ様なと言ひますか其れか悪いのです大阪地方の人は頭の一つ位は打がれても構はんと云ふ様な風てすから商賣上には極く良ひのであります郷に入つては其俗に従ふとやらて萬事柳に受けて何んでも支那に在つては支那人の様な

下品な交際をせねは彼等の氣に入りませんから彼の下品なる交際も我慢をして交際する様に務めなければなりません然るに日本に居る時支那人を愚弄した様なとを考へて居ると交際をする氣にならず且つ飛んだ損をせねはなりませんから是等は餘程注意すへき事柄て御座ります

是迄は商賣上の要素も備はらず支那の語にも通するものか少なく且つ支那人を厭惡するの情か先入主となると云ふ様な譯て且つ此の習慣か商賣上に及ほし日清間の貿易は殆んど支那人と西洋人どに任して居ましたから之れを我國人の手に挽回するとは一寸六ヶ敷ひ様てありますけれども前席の支那人も演舌しました通り今後日清間は此儘ては居りません他日互に内地雜居ても許さるゝ様になつた曉には我々の如き維新以來西洋の格物上の思想も多少腦裡に藏め支那の學問も幾分か嚙つて居ると云ふ様な者は宜しく進撃すへき時てあつて

彼の内地に足を容るゝときは鑛山の抛棄してある所が多ひから支那人と共同して鑛業を起しても面白く又た支那人を籠絡して將來鐵道の敷地になるへき地を買ひ占めて置いて金儲けをするとも出来又た河南地方には天然の石鹼を産出する所がありますか之れに人工を加へて賣捌ひても宜しかるへく屑繭紡績場或は蔴織物の工場を設立する等金儲の種は枚擧に遑ない程であります左様なれは現に日清の貿易に従事しつゝある所の諸君は既に彼れの習俗言語にも通曉し居るものなれば其時なれば千歳の一遇にして支那四百餘州の山川に利を探くるの時てありますから今日に於て之れか準備をするは尙ほ早しとは申されません

次に上海と云ふ處に付て注意を促すへき事があります上海は東洋貿易の要路即ち陸揚げ地て彼處を経て消費地に往くので大抵上海て荷を造り直したり張り紙を換へたりして夫れより各地に廻はすのであ

りますから上海の取引を見て支那全体の貿易を察するとは出来ません故十分注意して此品物は何れの地方に轉輸してどうゆう風に用ひられると云ふとを深く探究せねは貿易は出来ません併しなから茲に特に上海の有様に據て仔細の視察を下さねはならん物があります何かと云ふに夫は裝飾品であります上海は近來女郎屋藝者家芝居杯か流行して漸々繁昌して來ましたから男子か白粉を着け女子か髻附を塗る様になつて古の揚州とか蘇州とか云ふ様になつて來ました故に簪とか根掛とか白粉とか總て裝飾に屬する物は皆な上海から流行して内地に及ぼすのです我國ても矢張り裝飾に屬する物は東京から流行を初める様なもので支那に於て流行する裝飾品は上海の物を手本にせねはなりません

其れて支那に如何なる物を向けるならば好いかと云ふに日本から丁銅か大層往きますか之れは私の度々申す如く皆な眞鍮にして日常の

度雜貨を造るの材料にされるのでありますから將來は原料の儘で輸出するのを止めて成るべく人工を加へて送る様に致したいのであります。夫故に此度種々の漂品を特て歸つた様な譯であります。就中釦とか烟管の雁首とかは實に需用の多い物で其れ等の原料は皆日本から往て居るのであります。又た此等の金物類か日耳曼英吉利杯より支那に輸入して來ますか是等の國はどうかと云ふに日本よりは路程も遠く且つ工料の高ひ處てありますから之れを日本にて模造したならば日本品の方が引合ふに違ひありません。又た日本から西洋に往く銅杯も東洋向き雜貨になつて再び東洋に歸つて來るのか多いのであります。すから將來に丁銅の儘で輸出するよりも之れを眞鍮とし前記の品物に變態せしめて輸出する様にしたならば大變利益になると考へます。次に磁器も亦た大に望みの有る品であります。支那では産地の原價は

安いのですけれども内關と申し内地河港の税關と外關即ち沿海開港場の税關と二重の關税を取られ其上に十里乃至二十里毎に釐金局か有て釐金と稱する一種の通過税を課せられますから需用地に達すると高い物になつて居ります。故場所に依れば日本から持つて往つた方が安く付きます。然るに是迄左程賣れないのは何に原因するかと云ふに日本人か支那の事情に暗いからであります。支那では好んで常に熱い物を食ひますから日本の燒物は熱い物を盛るとにゆうか入つていけないのであります。彼我の間には氣候の違ひか有りますから其邊に餘程注意を要します。支那は空氣かどろりとして居ますから堅い燒物か好いので日本の様に氣候の冴へた所に適する様な燒物は支那に向きません。一体に支那では火を強くして焼きますから中に出來損しか生しますか其代りに満足の物は善く焼けて居ます。然るに日本では火を弱くして千個は千個損しの出來ない様に致しますから冴へか悪く

て支那に行くに龜裂か入ていけません故に焼き方を改良し又た模様
 に注意して持へれば必ず支那に向くてあるふと思ひます
 次に支那には棄利の拾ふべきものか數多御座ります然るに支那人は
 一体總ての事に節儉でありますから猥りに物を棄てるとは致しませ
 んけれども或る物に於ては支那人の智識では未だ之れを利用するこ
 か出來ないのであります例へば支那人は肉食を多くやりますから鳥
 の毛などは澤山ありますけれども未だ之を細密な器械を用ひて絲に
 織り出す様などは出來ないので西洋人が持て往て織物にして居りま
 す是等も日本人が持つて來て織物にしたならば其は其は買ひてありまじやう
 其他縲纒杯か大層ありますか之れは實に望みの有る品を日本では近
 來西洋紙の需用か多い爲めに縲纒の値か高くなりまして鉋屑や糞を
 用ひて安い紙を持へて居りますか安ければ従つて紙か悪いのですか
 ら支那の様な縲纒の安い地から買込んで西洋紙の原料に使つたらよ

いてありまじやう支那では縲纒は靴の底若くは落し紙の代りに使ふ
 位なものですから日本人か之れを買ふなれば自から問屋をも持へね
 はなりません是等は一二の目に觸れた事を擧げたので此外棄利の拾
 ふべきものは非常に多いので御座ります

次は賣込に付て御咄致します之れに付ては最も注意すべき點かあり
 ます何てあるかと云ふに日本から持つて往つた物は概して粗末であ
 ります就中大阪杯から往く石鹼蝙蝠傘の如きは皆な粗末で石鹼は非
 常に曹達か強く其表面に白き霜柱様のものを出し外觀悪るきのみな
 らず皮膚に不快を覺へ蝙蝠傘は開くと直に骨や環金杯に狂ひを生じ
 至つて粗末なる製造であります左ふゆう粗造の物を安く賣るのであ
 りますか何故にそんな安い物が賣れるかと云ふに之れは大に原因か
 有るとしてあります日本人と取引をなす處の仲買等は福建廣東寧波
 の極めて狡猾の奴ばかりて日本品か信用を得るも失ふもろんなとは

構はないて所謂後は野となれ山となれて只た一時の利を貪れは足るのでありますから支那内地の田舎大盡の開港場に仕入れに来るのを待つて種々の巧言を以て是等の粗悪品を撰ませて居るのであります左ふして段々と内地の方では日本品は悪いと云ふことになつて日本品の信用が落ちて来りつゝあるのて御座ります然るに今日尙ほ未だ賣れると云ふものは物理上の現象を現はして從來の餘勢未だ盡きす恰も蒸氣船の通つた後に筋か付て居る様な譯て全く望みの絶へたのては御座りません今より尙ほ此の粗悪品を續ひて輸出せは日清貿易は止つて仕舞ふ様になります故今日に於て之れを挽回せねはなりませんから貿易熱心家は率先して彼の仲買才取等の如き狡猾者を日清貿易市場より追拂ひ彼我の眞誠なる新商人か取つて之れに代はるの覺期なければなりません而して此眞誠なる新商人は決して一時の利を以て永遠の利を賭するなどの失行なく偶々日本輸出品中粗悪品かあ

るときは之れを差押へ彼の商人に賣渡すとなく日本物品の丈夫なるとを彼等一般に知らしめたならば自然の勢力にて自家の勞を待たす其廣告は日本物品と共に滿天下に普及する様になるてあると考へます

次に最も注意を要し且つ之れを利用するとか出来るものて御座りゆす夫れは何かと云ふに支那の商人は一体に手先きを大層使ひまして問屋杯は跑街的と云ふ者を使ひます之れは幫間の様なものて支那國中の方言一として通せざるものなく文人の眞似も出來粹士の眞似も出來ると云ふ様なものて又此の跑街的の中には跑棧的或は跑碼的杯と云ふ者か有りまして乙者は船か着くと直に海岸に往つて埠頭を徘徊し己れの商品に關係ある物品の到着を見れば其宛名及び物品の多寡を探り直に歸つて主人に告ぐ主人は直に計畧を立て己れの賣るべきものは賣り買ふべきものは買ひ又た先きに御咄申した様に同業

者相團結して投賣りをさせる様な事も致します又甲者は宿廻りを
 するので宿屋の番頭や亭主に鼻薬をやつて置いて客が来ると宿屋か
 らこふゆう田舎大盡が来たど云ふとを通知させるので通知があるど
 自ら往て其人物を見て老實な人物なれば自分も老實にし客の氣質を
 見抜ひて臨機應變に商人文人粹士など相手の如何に因つて其舉止態
 度を自由にし只管客の機嫌を取り頼りに欺心を求めろれから藝者屋
 茶屋阿片屋料理屋杯に同行して馳走をなし充分に籠絡したと思ふ頃
 になると私の友達で何街に店を出して居る者かありますか誠に正直
 な男たどか彼れの賣る品物は品質が好くして安いとか私より申込め
 は幾割減價するとか何とか云ふて引寄せて遂に之れに賣付け様な
 事を致し居る一種の營業者かあります今日まで日本人が支那に往て
 ろうゆう奴を使つた人かないから勿論斯る奴を雇ふて使ひこなした
 人が有りません是等の奴は何れも義理人情の觀念なく其眼中には私

利の外勿論國家杯はありませぬ故金錢にて彼れの特伎を意の如くに
 利用するとか出来るのでありますから充分に餌を與へて使役せねは
 なりませんか是れには余程手加減がありまして一度に多分の金を與
 ふるよりは成る可く少しつゝ度數を多く賞與するときは常に彼れか
 怠慢心を抑へ絶へず勉強を持續させることか出来ませぬ是等の事は今
 後我邦人の彼地に渡り盛大なる取引を營む人は必要なる一器具なれ
 は其使役法も亦た忽にしてはなりません馬の如き温純なる獸ですら
 尙ほ其御法に巧拙がありますから況して彼等を御するには充分の注
 意をなさねはなりません

目下日清貿易の有様を視ますれば清國より来るものは重ものに砂糖綿
 花蔴等て日本から往くものは海産物と天産物か重なる物て孰れも
 彼我に必需品であります今後皆な果して盛んになる乎と云ふに私は
 此等の我が輸出品の前途に付懸念に堪へないものかあります即ち我

か海産物は是迄漸々盛んに成つては参りましたけれども終に今日の
 花主をも失ふ様な不幸に陥いるかも知れないと云ふとて御座ります
 借て天産物には或る一定限がありましたして既に其極度に達するとき
 更に人爲の作用を以て増殖の方法を施し器械等に改良を加へねは收
 獲は従來に及ばない様に成つて詰まる處直段を引揚げけはならぬこ
 とになります夫れに付て今ま一つ懸念が増して参りました彼の薩哈
 連島朝鮮及び滿洲東部の如きは孰れも水産に富んで居る處でありま
 すか今日迄其産物か市場に現はるゝとか尠なく此れ等地方の人民は
 今迄殆んど採收に着手しないと云ふ位で固より他に輸出したとは尠
 ないので御座ります夫故に我海産物か幸に今日の勢價を占めまして
 未だ將來にも見込がある様なれども前に述べた如く將來直段を引
 揚げねはならぬ様な勢になりますると又た露領や朝鮮などの人民
 も何時迄も袖手傍観はして居ませす採收に着手して盛んに輸出する

様になりますすれば日本品のみに獨り支那市場を專有して居るとは出来
 ますまいと考へます現に今日に於てすら天津では露領沿岸に産する
 昆布を輸入して其荷造を日本品と同様になし日本文の印し杯を付け
 て西北方の内地に送つて居りますゆへ是より追々經歷を積み改良を
 加へるならば今日の如く日本品に具似すとも其販路を擴げる様にな
 るてあると考へます又た我國の干鮑の如き過半は朝鮮近海で漁して
 持歸り乾製の上輸出して居るので御座りますから是亦た何時迄も朝
 鮮人か傍観しては居ません故に海産物や天産物のみを以て日清貿易
 の我金城鐵壁として永遠に頼むとは覺束ないとも存します就ては今
 日は大に猛省奮發して漁業を擴張し支那の市場に日本人か商權を占
 るの覺悟なくては相成りません又我國は幸に銅とか石炭杯の天産に
 富んで居りますけれども丁銅の如き原料を輸出するよりは工料の低
 廉にして美術の志想ある我國人の手にて製品となし原料固有の價値

に人為の價値を加へ輸出する様に致し度ひもので御座ります且又箇様に原料が製品となりますには之れに付て種々様々の營業者か入用になります從て多數無職の人民に各其職業を興る杯の利益が伴ふて参ります儲是れ迄述べました通りでありますから私は我國經濟上の國是を定めるには此の方針を執らなくてはならぬと確信致します少々話か横路に這入りますか近來我國にて美術論が盛んに成つて來ましたか私は實は歎かほしひと思ひます昔より諸國の歴史に付て考へまするに美術杯と云ふものは其國が繁榮を極め奢侈に流れたる時代に盛んなるものである様に考へます然るに方今我國人が嘖々美術を獎勵するのは其目的か何れの點にあるか私には甚た解し兼ます泰西諸國の中て古來美術の發達を極めたるは希臘羅馬の繁盛を極め追々下り坂になりかけました時であります又日本でも足利や徳川の末世に於て實に盛んで御座りました方今佛國英國杯にては美術も隨

分進歩して居るのですか是れは我國人の唱道する美術論とは少しく其趣きを異にして居るので彼等は美術品を以て貿易社會に立つ積りてはなく美術品に因て工藝上の伎倆を表示するので御座りまして且つ是等の國は衣食住の程度か我國に比して遙か進歩して居ります然るに目下我國の富の程度は如何て御座りますか斯の様な貧國に在つて美術を獎勵するは恰も胃弱の患に向つて牛肉の滋養多きを説くと同様であるかと考へます又美術品で金儲けをするとは甚た六ヶ數ふ御座ります從來の統計上に因て調べて見ると外國から我美術品と交換したる金高は甚た勘ないので御座ります故に美術に屬するとは他日我國か今の貧乏なる境域を脱してから後ものとして買たいもので御座ります例へは富貴な人が壯年より自ら其財産を拵て安樂になつてから茶の湯とか插花とかを弄ぶ様に順序好くせねはなりません次きは支那に對する商賣の方針て是れは事情の許す限りは彼國の惡

習慣を利用するの外はありませぬ彼の西班牙人か無盡をやつて居るのも英國人か阿片を賣込むのも皆な支那の惡習慣を利用するに外ならんとて御坐ります支那の惡習慣は種々ありますか一例を挙げますと冠婚葬祭を非常に重んずる人民であります此等の中には大變金を費すので棺桶や嫁入道具に上等の人は數千圓も掛けます夫れて嫁を娶るときには下等の人でも五百圓位は嫁の處へ遣らねはなりません棺桶は下等のもので二十圓上等になると四五百圓のものを使ひますして其材木は厚さ五寸位でありますか支那では濫伐に加ふるに山林保護の制度なく追々大樹少くなり雲南貴州福建暹羅安南印度亞米利加等より材木を送つて來るのでありますから其費用に堪へずして一人死すれば破産する様な事か多ひのでありますそこで私の考へには日本人か支那で生命保險會社と棺桶屋を合併の様な一種の營業を初め毎月とか每一個年に何十錢若くは何圓宛拂込むものは自身若く

何々年間に死去したるときは幾十圓若くは幾百圓の棺桶を與へるとか云ふ様な組立にしたらは定めて見込かあると信します若し又支那人か其會社を信用せぬ様のとあらは政府に保證金を納めて責任の區域を明らかにし規則書に領事の奥印を取てやれば信用上に差支を生ずるとはありませぬ一体支那は政府の事と云へは大に重きを置くの風習あるに依り領事の證明あるものと云へは定めて信用も厚かるべく繁昌するに違ひありませんから何んでもこんな風に遣つて往かねはいけません數年を費して一の花瓶を造つて之れは立派に出來たとか左り甚五郎も及はないとか云ふ様に古人の糟粕を嘗むる様などをやつて居ては到底斯國は富みませぬ然れども繪畫彫刻の類にして學術上に裨益あるものは間接に工業上にも其利益を及ぼすものなれば決して忽にしてはなりません一体日本と云ふ國は亞細亞洲の小間物屋みた様な國で櫛楊子齒磨の様な小奇麗な物は出來るかそ

んな物はかりやつて居ては一國を全く小間物屋様の國となして仕舞ひます夫れては餘り意氣地かないてはありませんか是れは私は眞心よりして我國の程度に比して不相應なる美術に狂奔するの弊を得話し致したのてすから眞正に美術の意味合を知て居らるゝ所の熱心家は決して之を以て心持を悪くされない様に願ひます

次に支那で商賣をするに就て今一つ御話を致しますか上海にはコンプラドと稱する一種の營業がありました之れは仲賣と會計杯とを兼ねたるものでありますそれを爲替杯も自分の金を出して取り組みます西洋人かソウエウ風のコンプラドを置たのは初め語か通しなからして一種の營業を造つたのでありますして歐米の所謂コンプラドとは異なるもので御座りますか今日ては之れか習慣となつて支那語の通する者迄も之を使はねは商賣か出來ない様に思つて居ます此營業者はなかなか喰ないへ奴等はかりてありますから向後日清貿易

の衝に當る所の我々は此習慣を打破らねはなりません而して之れを破るには嚮きに御咄し申した様に先づ日清間の貿易を支配する諸要素を拵へ漸く經驗と堪忍とを積んで駭々として其歩を進むるときは自然商權は我國人に歸し冥々の間日本人の勢を増加し支那人も己れの利益に制せられて日本語を使ふ様になつた來ます即ち彼をして我に致さしめる様になりますからして西洋人の迹を擬ねない様に日本流の一機軸を造り出さねはなりません故に日本人は支那に往て商賣をするなれば充分彼の内地の事情に通し需用の有様産出地の模様杯を調査し置ひて英語杯を使つて商賣をする様な事は止めねはなりません

支那に於ける我海産物の景況

説明員

我國海産の清國に向く様になつたのは近來のとはありませんのでしてすつと昔しからであります従前は僅々二三種のものでしたか今

支那に於ける我海産物の景況

五百九十三

は既に數十種類の品々向く様になりましたゆへ昔は高貴な人の宴饌にさへ稀であつたものも今日では既に小民の食料となる様になりました夫れて明治元年の輸出額は五十萬圓に過ぎなかつたのですか一昨二十一年には既に四百萬圓以上の高になりました我國と西洋諸國との貿易品の重なるものは生絹及び製茶で御座りますか明治元年より二十一年迄に輸出したる製茶及生絲と支那向き海産物との増進の度合を比らへますると生絹は二倍強製茶は三倍弱て御座りますか獨り海産物に至つては八倍強の増進て御座ります斯の如く進歩致せしは彼我交通の便利かよくなつたのと我國海産業の獎勵の行届きたる結果及び清國に水産物の供給の足らないところからの譯てあるうと思はれます又彼地人民生活の度か増進したのも亦此一源因て御座りませう以上四個の原因各相關係して今日の盛況を來したのに違ひはありませんまいか先づ交通運輸の便利か發達したるに源づく譯てある

と信します何故なれば元來支那人は海産物を以て我より斯の如き多量を輸出せざりし以前より宴席上欠くへからざる必要品と致して居たので御座ります

借支那は我國と僅に一葦水を隔てたる隣國て御座りまして北の方は内外蒙古滿洲朝鮮に連り南の方は南洋安南交趾緬甸に接し西の方は青海伊犁西藏と接壤し東の方は黄海東海に臨み其面積無慮二十六萬九千三百方里我國より大ひなると實に十一倍にして其人民は四億萬人て我日本よりは十倍餘も多く御座りまして實に世界中他に比類のない大きな國て御座ります

支那本部は直隸、山東、山西、陝西、甘肅、河南、四川、雲南、貴州、湖南、湖北、廣西、廣東、福建、江蘇、江西、浙江、安徽、の十八省に分たれ彼の有名なる揚子江は其水源を四川省の岷山と云ふ所より發し四川湖南湖北江西安徽江蘇の六省を貫流しある一千餘里の長河て御座りまして其河水を東海に注

き出します又た黄河は甘肅省西寧府邊より陝西山西河南山東の四省を貫流し其長さは大約そ日本里程の七百七十七里餘にして渤海に注入する河で御座ります而して支那本部の海に瀆するものは北は遼東より直隸山東江蘇浙江福建廣東の各省にして其延長は支那里程の九千里程の長さであり如此沿江濱海の地に富んではおりますか海産物の産出地を擧ぐれば僅々廣東福建浙江の三省に過ぎないので御座りまして揚子江黄河の如き長流及び洞庭鄱陽の様な大湖もありませんけれども皆な細鱗雜魚のみで支那か元來貴重する所のものでは御座りません加之近年に至り漁船の交通は日に月に其數を増加してまいりまして沿岸漁業の利益も前日の有様なく年々に漁業者の廢業するものか澤山に出來て來ました斯の如き有様で御座りますから勢ひ終に外國より輸入せんければ需用を満すとか出來ない様になつて來たので御座ります

從來支那へ海産物を供給する所の國々は東北では日本朝鮮露西亞西南では印度波斯南洋諸島で御座りますに目下支那に於て消費するところの重要海産物の國別を擧ぐれば我が日本よりは昆布鰯海鼠鱧鰯明骨寒天淡菜乾貝蛭蚌鮑蝦乾魚鹽魚雞冠菜等て朝鮮よりは鹽魚海參魚翅露西亞よりは昆布海參波斯印度及南洋諸島よりは光參魚翅堆翅魚肚魚皮魚頭魚唇燕窩明骨等の數種にして支那自國にて産するものは鱧鰯光參魚肚魚頭魚唇魚皮蛭蚌明骨鰯鮑蝦蜆皮紫菜鹽魚及乾魚の數種で御座ります

支那人は未だ今日の如く外國より海産物を輸入せざる前より之を以て貴重なる饌料の必物品となし居たるとは已に世人の知る所で御座ります亦た我國より年々彼れへ輸出する海産物の増進し來りしとも亦た人の知る所でありますか我が海産物の輸出か今日の増進をなしたるものは全く交通運輸の便利によりたる爲めに之を催進したると

支那に於ける我海産物の景況

も定めて人の知る所て御座りませう
 聞く所に依れば日清間の條約は我が駐清現任大島公使が目下正に其
 改正に汲々せらるゝとのとて御座りますか此の改正にして具合よく
 ゆけは第一に内地の釐金税を課せらるゝの憂を脱し得べく彼地新港
 に營業致すとも自由になりて種々の税銀も漸次繁重を免れ諸事萬端
 我貿易上に至大の便益を興ふるとになりませう且つ數年を出てすし
 て支那政府か一大計畫なる天津北京及西南中央の各都府を貫通し四
 百餘里を綿連するところの鐵道も成就して中樞の一太市場なる漢口
 に氣笛を聞く様になるてありませう其時こそ支那國の貿易に未曾有
 の一大進歩を興ふるの初機でありまして彼の頑固なる支那人と雖と
 も已に鐵道の利器なるとを知らは數年ならずして鐵道論の四方に騰
 起するや疑ひないとして御座ります已に運利の快便なるとを欲する様
 になりますれば内地の運河に於ては舊式の船の運利に據るの不便を

感じ遂には各河道に小汽船を使用するに成り行くとは勢の然らしむ
 る所て疑ふ迄もないとして御座ります
 夫れて前申しました通り陸に轟々一瞬千里の快運あり河に汽笛相呼
 ぶの速輸かある様になつてまいりましたして運輸のとか段々完備すれば
 申す迄もなく運賃費用の低落を見るは必然の事て御座ります運賃か
 低落して物價の上に其の餘響を及ぼし昔日貴人の食も明日賤夫の膳
 に上り昔日都會の需用品は今片田舎に迄も行き渡る様になりまし
 て追次澤山の數量を消費する様になりませう斯の如くなれば支那版
 圖の廣大なる人民の衆多なる我海産物を食するもの一個年一人に付
 十錢とするも四千萬圓の多きに至りますなんと太いしたものでは御
 座りませんか

右申上しました通り支那に於ける我海産物の景況及未來の成行は大に
 望みあるもので御座りますゆへ此業に従事なされる御方は宜しく御

勉勵あらんとを願ひます

跋

曩者荒尾君の日清貿易研究會を東京本挽町の厚生館に開設せらるゝ、即ち明治廿三年七月にして此時第三回内國勸業博覽會未だ其終を告げ未だ隨ふて予の負擔せる事務亦結了せざるか爲め閑暇を得ると希なりし而して研究會の擧たる世人の翹首刮目する所最も我國に利益を與ふべき清國の通商に關するを以て予は少時の餘暇を得れば輒ち其場に臨み陳列の物品を熟視し又深切なる説話を聽き疑義を質問し更に我邦の物産を開發せしむるの要領を

得たりき然れども日子の短き其見聞をる所僅に十
中の一に過ぎきを尚隔靴搔痒の思あり嗣て速に説
明筆記の世に出んとを希望せり頃者印刷已に成る
受て而して之を讀むに詳悉丁寧寔に廣く世人を裨
益せむに足る豈帝子の希望を満足せしむるのみな
らんや仍て一言を卷末に附せと云爾

明治廿五年九月

田中芳男識

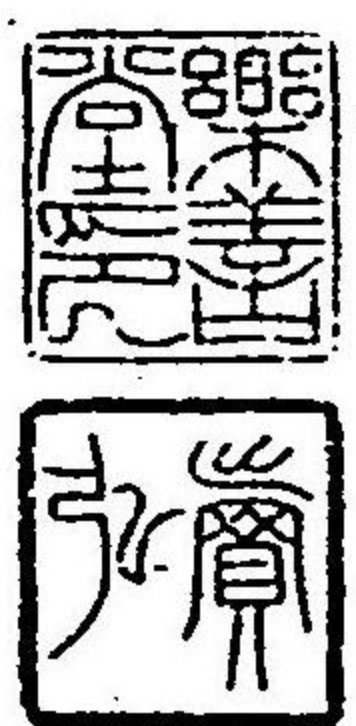
跋

今之言時務者咸曰富強夫致強之道端在致
富致富之法務在振興農工商賈耳我邦維新
之後倣效西法頓改舊觀汽船鐵道之快電線
郵便之捷無非一以便於人民而復屢次開設
博覽會又准專賣之權鼓舞并勵無不周到是
以農桑漸盛奇巧日出其效彰彰在人耳目唯
於商務一項有舊習所未脫營運所未大稱爲

巨商大賈者日坐店舖兄弟相爭朋友相軋紛
紛擾擾貪得小利自鳴得意比比皆是此其所
以我邦商權甘讓之乎外人而茫然無顧也我
姪荒尾精慨之久矣曩設貿易研究所於滬上
集徒教授三年於茲今復附造物產陳列所收
羅貨色類聚其中不但可知各地土產之多寡
衰旺并可以察各物品質之美惡精粗使中外
各國人一目瞭然以便於照樣以資貿易務期
逐節擴充將來使我邦商務蒸蒸日上可以收
回利權而致富強亦必在斯也荒尾氏之於商
務可謂勉矣頃者通商綜覽刻完書之附其後
云爾

明治二十五年十二月十日

岸田吟香未定艸



清國通商綜覽第一編正誤(地)		頁	行數	誤	正
百全全	百百全	百百全	百百全	百百全	百百全
二十十九	十十四	九三十一	七六五	七六五	七六五
十五八八	四八	十二十九	五五九	全十十八	八七一一
賣を郡横	云ふ	四耕普	吏場法	幾い官	並因釋
官	下	種ノ下	ノ下		
官か横郡	正加	三法晋	史鹽稅	勅ひ官	并國釋
發	フ	字ヲ加フ			
全二全	二二二	全二全	二二二	全二全	二二二
百七七	百七七	百七七	百七七	百七七	百七七
十六五	十五一	十九八	三五六	五九一	八七六
十六八三	五九七	三八一	四二六	十四三	一四二六
波義午高	英孝宗	戸在川	くに夕	急う會	貧民
擊ノ下		世ノ下			
管響滿	商英	戸世	りはた	忽れ誠	民貧
字波字	宗孝宗	宗常	ヲ加フ		
削	加	削			
全二全	二二二	全二全	二二二	全二全	二二二
百五五	百四四	百三三	百二二	百一一	百
九六五	八五四	七四三	六四二	五四一	四四〇
十十七	十十六	十十五	十十四	十十三	十十二
一七五	一七四	一七三	一七二	一七一	一七〇
針日清	第三編	第二編	第一編	正誤	正誤
の演説	は	は	は	は	は
は方	第五門	第四門	第三門	第二門	第一門
注意					

八全八	八八八	八八八	八八八	八八八	八八八
百七十九	百六十七	百六十六	百六十五	百六十四	百六十三
十一	六	五	四	三	二
は人	棉	屋	を租	草獎	冷江沈
入は	せ	綿	す	長	せ
精	精	精	精	精	精
ル	ル	ル	ル	ル	ル
全全全	千千千	千千千	千千千	千千千	千千千
三廿五	三廿五	三廿五	三廿五	三廿五	三廿五
十二	十五	十八	二十一	二十四	二十七
盛關徽	鐘間限	尋人桃	とす	許海	海ノ上
京東	八ハ				
駒盛	慶徽	間銀	常入	挑を	處加
東ノ	誤				

明治廿五年十二月廿日印刷
明治廿五年十二月廿一日出版

第二編定價金參圓貳拾錢

編輯印刷者行

清國上海英租界漢泉路第拾號

日清貿易研究所

右代表者

日清貿易研究所長

荒尾精

東京日本橋區通三丁目十四番地

丸善商社書店

東京日本橋區通一丁目十九番地

大倉書店

東京京橋區宗十郎町十五番地

國文社



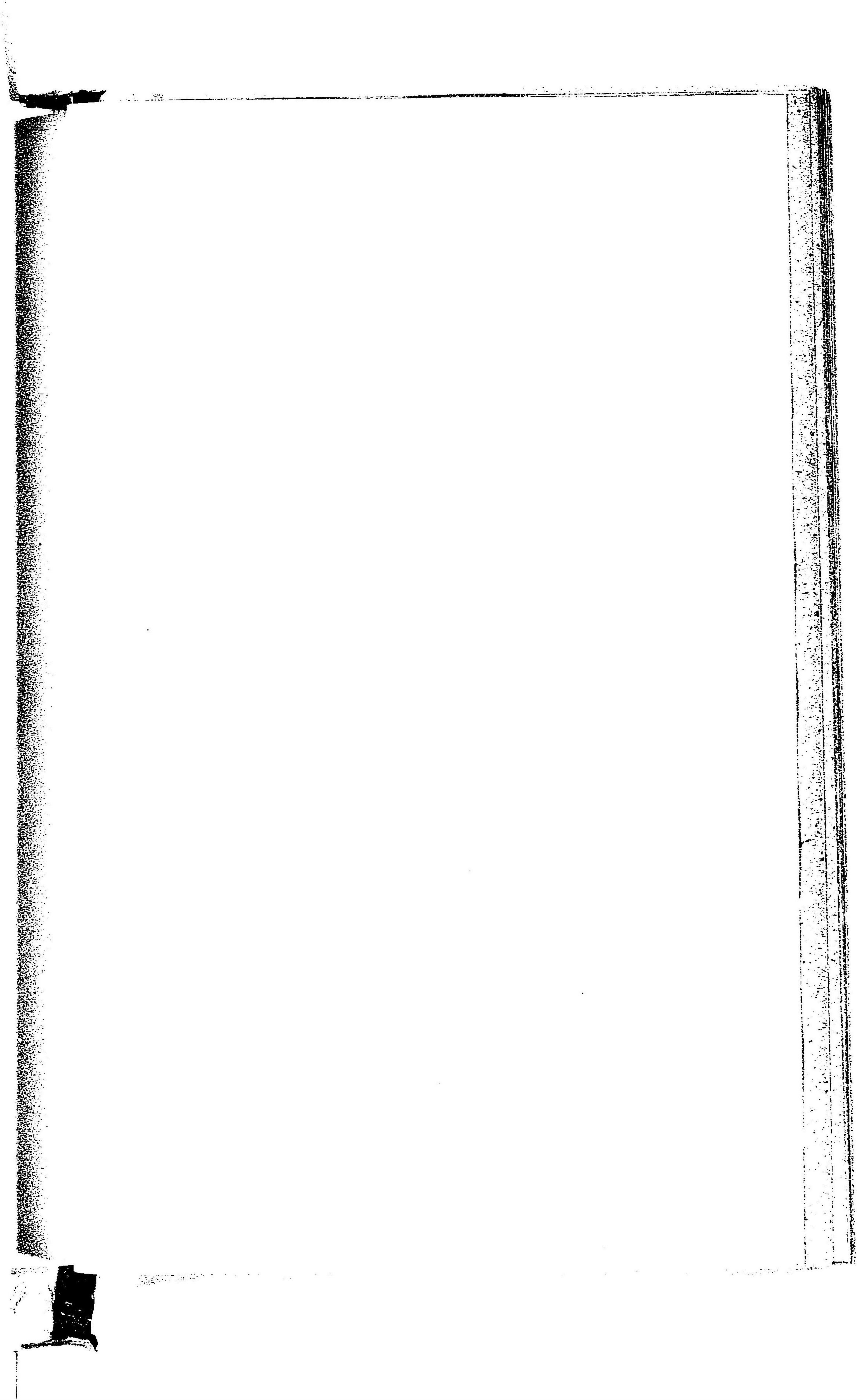
版權所有

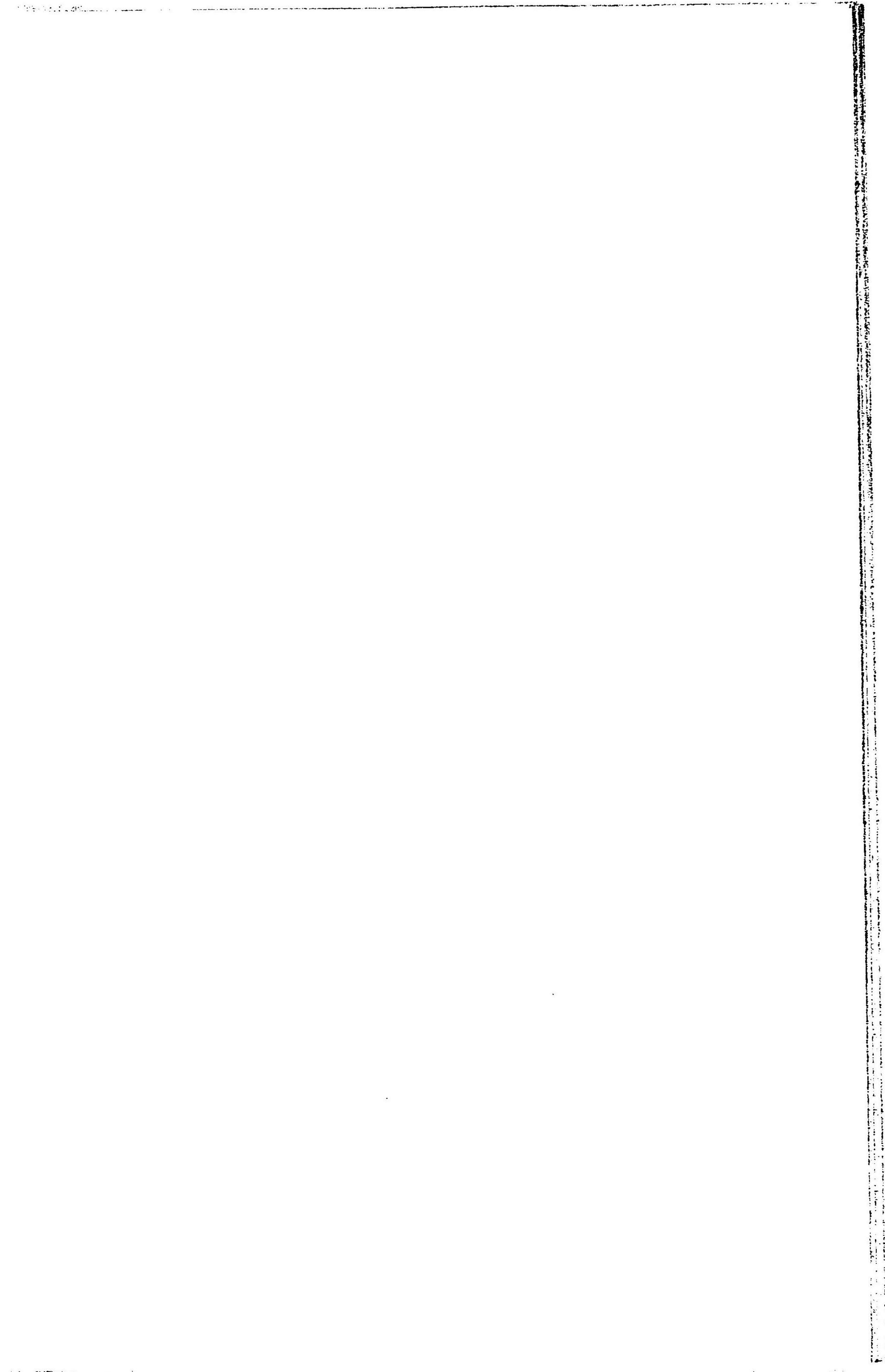
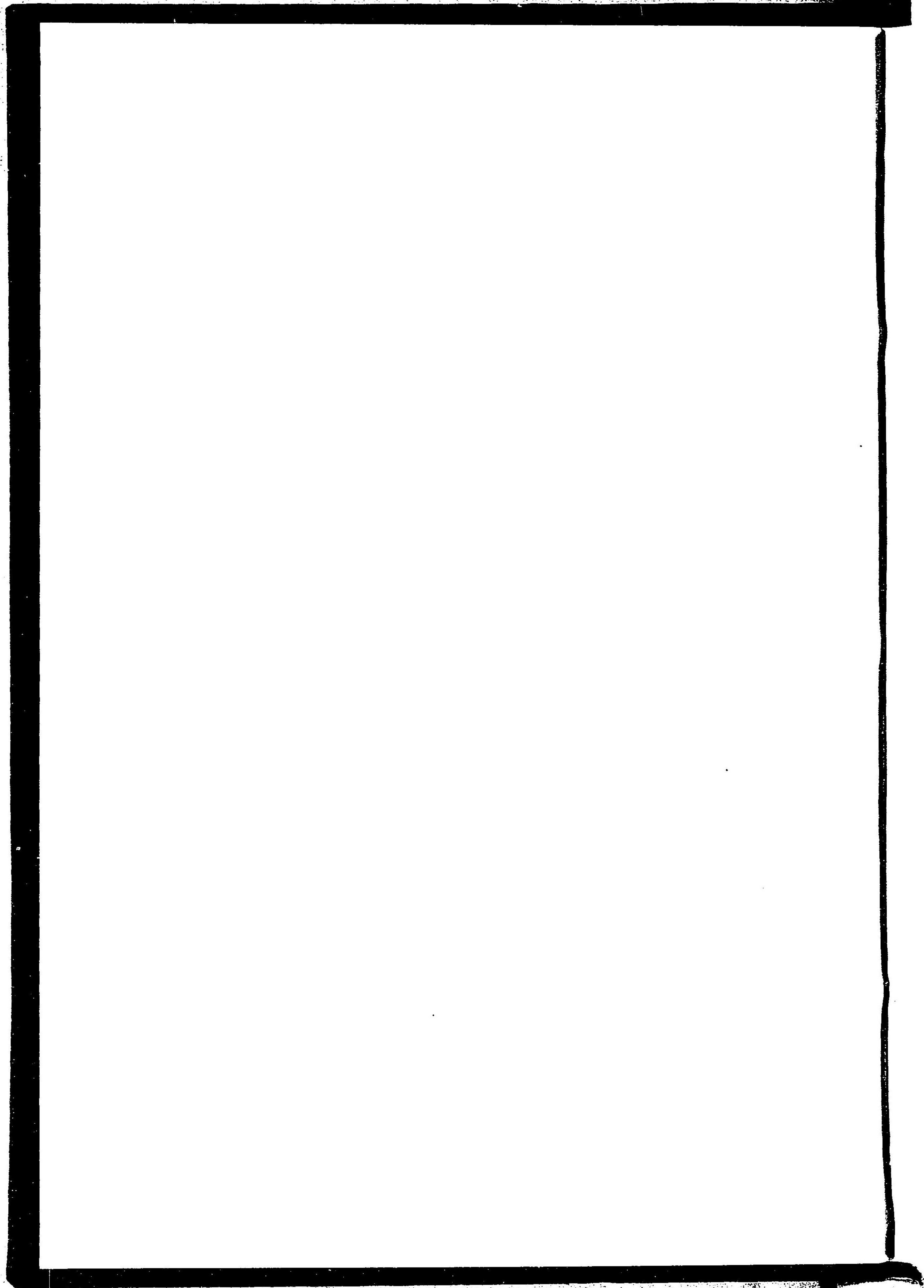
發賣所

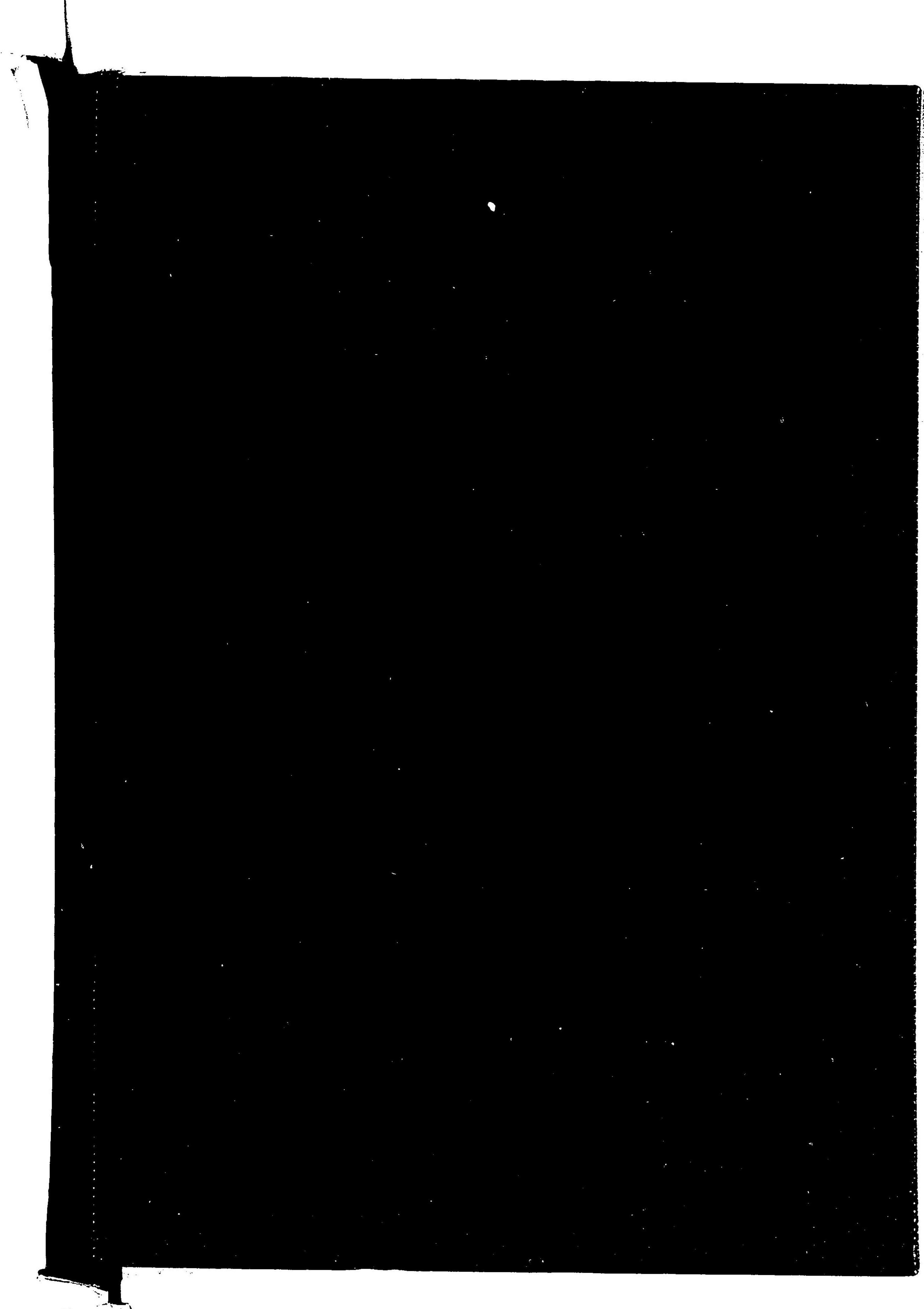
發賣所

印刷所

8A-53







292.2
N861A

